

1 使役

<書き下し文・意味>

<句法解説>

- (1) **ちょうたらしむ** 天帝我をして百獣に長たらしむ (天帝は私を全ての動物の長にさせた)
- (2) **つけしむ** 秦王使者をして趙王に告げしむ (秦王は使者をやって趙王に告げさせた)
- (3) **うたしむ** 院義経に命じて平氏を討たしむ (後白河院は義経に命令して平氏を討伐させる)
- (4) **ひとをして** 王人をして之を学ばしむ (王は人をやってこれを学ばせた)
- (5) **のぞましむ** 吾人をして其の気を望ましむ (私はある人にその人の気運を遠くから見させた)

使[二]A～[一]は、使役の句法。「Aをして～しむ」と読み、「Aに～させる」と訳す。

使[二]A～[一]は、使役の句法。「Aをして～しむ」と読み、「Aに～させる」と訳す。

命[レ]A～[一]は、使役の句法。「Aにめいじて～しむ」と読み、「Aに命令して～させる」と訳す。

令[二]A～[一]は、使役の句法。「Aをして～しむ」と読み、「Aに～させる」と訳す。

令[二]A～[一]は、使役の句法。「Aをして～しむ」と読み、「Aに～させる」と訳す。

2 受身

- (6) **そしらる** 信にして疑はれ、忠にして謗らる (うそがないのに疑われ、真心をつくしているのに悪く言われた)
- (7) **おはる** 吾嘗て三たび君に逐はる (私はかつて三度主君から追放された)
- (8) **はづかしめらるれば** 匹夫辱めらるれば、劍を抜きて起つ (つまらない男は侮辱されると、劍を抜いて立ち上がる)
- (9) **しいするところとなる** 襄公は弟の無知の弑する所と為る (襄公は弟の無知に殺された)
- (10) **からるること** 駆らるること犬と鶏とに異ならず (追い立てられることは犬や鶏と変わるところがない)

被は、受身の句法。「～らる」と読み、「～される」と訳す。

見は、受身の句法。「～らる」と読み、「～される」と訳す。

見は、受身の句法。「～らる」と読み、「～される」と訳す。

為[二]A所[一レ]～は、受身の句法。「Aの～するところとなる」と読み、「Aに～される」と訳す。

被は、受身の句法。「～らる」と読み、「～される」と訳す。



【アプリ版のご紹介】古文・漢文

古文・漢文を学習中の中学生、高校生必見！定期試験とセンター試験に頻出の「古文単語」「古典文法」「漢文」を、完全に無料で学べるアプリが登場！！



【オマケの一題】

古文・漢文

次の白文の、カッコ内の読み方は？ 過「猶」不及
(A) いはば (B) なほ (C) まさに (D) ほほ